



きずな

平成 27 年度全道少年(U-11) 8 人制サッカー大会 第 13 回 JA 全農杯チビリンピック 小学生 8 人制サッカー大会 北海道予選札幌地区大会

第 1 ブロック優勝:コンサドーレ札幌 A
第 2 ブロック優勝:SSS
第 3 位:上江別ジュニア、クラブフィールズ

10 月 24 日、東雁来公園 G にてチビリンピック札幌地区大会準決勝及び決勝戦が行われた。10 月下旬にしては肌寒く感じられたが、準決勝からは全試合が人工芝で行われることもあり、好ゲームが期待される。

寧に繋いでボールを保持、立て続けに得点して元町を突き放す。

第 3 ペリオドは一転して、再び拮抗した展開となる。コンサドーレ札幌 A はサイドチェンジを多用して何度も元町のゴール前に侵入するが、元町は集中して跳ね返す。コンサドーレ札幌 A のクロスが風に流されて直接ゴールに入り、運悪く失点してしまったが、元町は試合の最後まで諦めずに粘り強く守っていた。最終的には 6-1 でコンサドーレ札幌 A が勝利し、代表決定戦へ駒を進めた。

第 1 ブロック準決勝(1)		
10 月 24 日 (土) 東雁来 G		
コンサドーレ札幌 A		元町
6	1-1	1
	4-0	
	1-0	

第 1 ブロック準決勝(2)		
10 月 24 日 (土) 東雁来 G		
上江別ジュニア		ベアフット
2	0-0	0
	0-0	
	2-0	

第 1 ブロックの初戦はコンサドーレ札幌 A と元町の試合となった。試合開始から、コンサドーレ札幌 A は左サイド 32 番が攻め上がり、クロスで何度もチャンスを作るが、元町が体を張って守る展開。8 分、コンサドーレ札幌 A は右サイド・36 番からのクロスで 34 番がヘディングで合わせて待望の先制点を得る。ところがその 2 分後、元町はコーナーキックのこぼれ球を蹴り込み、すぐさま同点に追いつく。そのまま拮抗した状態で第 1 ペリオドを終えた。

第 1 ペリオド、上江別が高い技術と細かいパス回しで丁寧にボールを動かし、主導権を握り試合を進める。その中、第 1 ペリオド 10 分、上江別が縦パス 1 本でベアフット GK と 1 対 1 を作り出す、GK のファインセーブでゴールならず。その 1 分後、ロングボール 1 発で裏に抜け出した上江別がベアフット GK と 1 対 1 を作るが、またしても GK のファインセーブに阻まれる。

続く第 2 ペリオドでも、コンサドーレ札幌 A はサイドからのクロスを多用してチャンスを作る。すると 3 分、コンサドーレ札幌 A ・41 番のアーリークロスで 6 番がヘディングで折り返し 25 番がシュート、勝ち越すことに成功する。中盤からコンサドーレ札幌 A は丁

第2ピリオド、第1ピリオドとはうってかわってベアフットが主導権を握る。上江別のボールを奪ってから縦に速い攻撃で上江別のゴールを脅かし、ベアフットのシュート数が多くなってきた。しかし、上江別も粘りのディフェンスで得点を許さない。第2ピリオドも両チームとも点は入らず。

第3ピリオド、やはり地力では上江別が上か。第1ピリオドの様な高い技術と細かいパス回しでボールを動かし、ベアフット陣内で試合を進める。良い時の上江別はボールを失った後の攻守の切り替えが早く、人数をかけてすばやくボールを奪い返していた。その中、第3ピリオド6分ペナルティエリアから7~8m離れた位置で上江別が直接フリーキックを得る。これを上江別2番(CB)がゴール左上隅に直接決め、ついに均衡が破れる。その3分後、ベアフットは自陣ゴール前で上江別の早いプレスに捕まりボールを奪われ、ペナルティアークから上江別3番がGK上に突き刺し、上江別の2点目が入る。その後、ベアフットも攻勢に出るも、上江別の堅守に阻まれ、そのまま試合終了。上江別が2-0でベアフットを下し、札幌地区予選・第1ブロックの決勝にコマを進めた。

第2ブロック準決勝(1)		
10月24日(土) 東雁来G		
クラブフィールズ		LAVORO
5	2-0 3-0 0-2	2

第2ブロック準決勝1試合目はクラブフィールズとLAVOROの組み合わせとなった。

第1ピリオド4分、フィールズ3番がフリーキックから先制点を挙げた。点は入ったものの両チームに差はないようにみられた。しかし、先制点から5分後、左サイドでボールを受けたフィールズ23番が相手を振り切り、ショートクロス。これに反応した33番が決める。この2点目の場面では、フィールズの選手はクロスに対してしっかり二人が詰めており、人数をかけた良い攻撃であった。第1ピリオドはこのまま2-0フィールズ優勢で終了。

小雨が降り出した第2ピリオドもフィールズのゲームとなった。開始早々、右サイドフィールズ45番からのアーリークロスを受けた30番が豪快に蹴り込みゴ

ールを決めた。さらに7分、フィールズは高い位置でボールを奪い、最後は18番がゴール。その1分後にはフィールズ35番のポストプレーから、30番がゴール。第2ピリオドは3-0でフィールズがさらに点差を広げた。

このまま、フィールズの勢いが続くかと思われたが、両者ベストメンバーが揃う第3ピリオドではLAVOROが追い上げを見せた。6分、ピッチが雨で濡れていたことで、ロングボールがフィールズDFを抜け、そこに反応したLAVORO9番がキーパーと一対一となるが、惜しくもキーパーに阻止された。勢いに乗ったLAVOROは直後のフリーキックから、ゴール前のこぼれ球を9番が押し込み、1点を取り返す。さらに、11分にはLAVOROのフリーキックが直接決まり3点差まで縮める。その後、LAVOROは9番を中心に反撃に出るが、得点差は埋まらず試合終了。5-2でフィールズが勝利を収めた。

第2ブロック準決勝(2)		
10月24日(土) 東雁来G		
AGGRE		SSS
0	0-0 0-1 0-1	2

第2ブロック準決勝2試合目はAGGREとSSSの組み合わせとなった。

第1ピリオド、SSSが後ろから丁寧にボールをつなぎ、右サイドを中心に相手陣内へ攻め込み主導権を握る。開始3分、その右サイドから中央へSSSがボールをつなぎ、ゴール正面、決定的な場面を作るもAGGREの決死のスライディングで点は入らず。その後もSSSは2番(CB)を中心に守り、7番(MF)や10番(FW)を中心として右サイドからの攻撃が目立った。これに対しAGGREは、速いプレス・連動した粘り強い守備で得点を許さない。

第2ピリオドは、第1ピリオドよりもAGGREがボールを持つ時間が増え、一進一退の攻防が続いた。その中、第2ピリオド12分、SSSは右サイドから9番(FW)がくさびを受けると、スピードに乗ったドリブルでゴール正面エリア内へ進入し、そのままゴール左隅に決めて待望の先制点を挙げる。

第3ピリオド開始早々、SSSはAGGRE陣内中央で7番(MF)→10番(FW)へスルーパス、裏へ抜け出した10番(FW)がゴール前でボールを持つが、またもAGGREの

決死のディフェンスで追加点は許さない。第3ピリオドは、第1ピリオド・第2ピリオドで目立っていたSSSの2番(CB)・7番(SMF)・6番(CMF)・9番(SMF)・10番(FW)らが全員出ており、SSSが更なる攻撃を仕掛け主導権を握った。守備は2番(CB)を中心にボールを奪い、後ろから丁寧にビルドアップ。攻撃は右サイドからだけでなく両サイドからの仕掛けに加え、10番(FW)へのくさびのパスも増える。第3ピリオド4分、SSSは左サイドからのくさびのパスがAGGRE・DFを背負った10番(FW)へ入ると、その相手と入れ替わる様にターンし、ドリブルでAGGRE・DFを1人・2人とかわし、そのままGKとの1対1を冷静に決めた。一方のAGGREは試合を通して、SSSに主導権を握られる時間・ボールを追いかける時間が多くなったが、その運動量が落ちることはなかった。また、球際の強さと粘り強いディフェンス、そして、すばやいプレスと連動した守備は、どの選手が出てても変わらなかった。AGGREは、ボールを奪った後に自分たちでボール保持がうまくできず、結果的にSSSがボールを持つ時間は増えていった。個人技術の高さが目立ったSSSが2-0で勝利し、札幌地区予選・第2ブロックの決勝にコマを進めた。

を迎える。ゴールキーパーの精度の良いキックを、13番がフリーで抜け出し1タッチで流し込んで同点となる。しかし、コンサドーレ札幌Aは左からの速いパスから右サイドの43番が1タッチで抜け出し、ゴール右にシュートを突き刺してすぐさま勝ち越す。

第3ピリオド早々、コンサドーレ札幌Aが決定的なチャンスを得るが、上江別ジュニアのキーパーのファインセーブで凌ぐ。コンサドーレ札幌Aがやや優勢であったが、中盤からは上江別ジュニアが盛り返して攻め込む場面が増える。それでも、コンサドーレ札幌Aは鋭い縦パスで再び流れを引き戻し、そのまま試合終了。手に汗握る試合は、2-1でコンサドーレ札幌Aが勝利し、全道大会出場を決めた。



第1ブロック決勝戦
(コンサドーレ札幌A vs 上江別ジュニア)

第1ブロック決勝		
10月24日(土) 東雁来G		
コンサドーレ札幌A	上江別ジュニア	
2	1-0	1
	1-1	
	0-0	

第1ブロックの代表決定戦はコンサドーレ札幌Aと上江別ジュニアの組み合わせとなった。コンサドーレ札幌Aが序盤からボールを保持するが、上江別ジュニアは鋭い出足で縦パスを入れさせない。9分、コンサドーレ札幌Aの2番がセンターサークル付近でボールを奪い、そのまま右足を一闪、ゴールキーパーの頭上を越えてゴールに吸い込まれる。中盤からはプレッシャーに慣れたコンサドーレ札幌Aが高い位置までボール運び、リズム良いパス交換でチャンスを作る。

第2ピリオドでも主導権を握ったのはコンサドーレ札幌A、サイドチェンジを織り交ぜながら丁寧に組み立てる。10分、上江別ジュニアは耐える時間が続くが、ハーフライン付近で得たフリーキックからチャンス

第2ブロック決勝		
10月24日(土) 東雁来G		
クラブフィールズ	SSS	
1	0-0	2
	1-1	
	0-1	

第2ブロックの代表決定戦はクラブフィールズ対SSSとなった。

第1ピリオド、SSSがフィールズ陣内で試合を進める形が多くなった。SSSは準決勝(vs AGGRE)と同様に、後ろから丁寧にボールをつなぎ、右サイドと10番(FW)へのくさびのパスを起点に攻める。守りは2番(CB)を中心にゲームを展開する。これに対し、フィールズもしっかりとしたディフェンスでSSSの攻撃を跳ね返し、

ボールを奪ってから縦に速い攻撃(SSS・DFの裏へのボール)が目立った。そして、SSS陣内までボールを運ぶと、バイタルエリアでは細かいパス回しの攻撃も見せる。その中で、ややSSSが主導権を握っているように思えたが、中盤での攻守の切り替わりが激しく、両チーム一進一退の攻防を見せる。第1ピリオド8分、フィールズ GKからのパントキック1発でSSS・DFラインを越えると、25番(FW)が抜け出し、シュート。しかし、惜しくもゴールを越えた。その2分後、今度はSSSがペナルティエリア付近でチャンスを作りシュートを打つが、GKキャッチ。すると、フィールズは再度GKのパントキックから25番(FW)がSSS・DFライン裏へ抜け出し、チャンスを作る。しかし、またしてもゴールは奪えず。

メンバーを総入れ替えした第2ピリオド開始早々、SSSはペナルティエリア付近で左サイドの11番(MF)→中央の9番(FW)へパス。このパスがやや流れてしまったが、スライディングしながらシュートまで持ち込む。これがゴール右隅に決まり、待望の先制点となった。ところが、その得点后、フィールズのキックオフ早々、高めにポジショニングをとっていたSSS・DFの背後にロングボールが送られると、25番(FW)が抜け出し、ペナルティエリア外から豪快に蹴り込み、ゴールを奪った。試合が振り出しに戻る。その後は、SSSがフィールズ陣内でボールを保持し、左右両方から攻め入り、主導権を握りながらゴールに迫った。第2ピリオド10分、SSS・5番(MF)が右サイドから中へ持ち込みミドルシュート。GKが弾いたところを9番(FW)がつめるも惜しくもゴールならず。その2分後、フィールズDFラインの裏へボールが流れる。すると、DFとGKがお見合い。このボールをSSSが拾い、絶好のチャンスとなった。しかし、最後のところでうまく蹴り込めず得点とはならなかった。

第3ピリオド、SSSは前試合(vs AGGRE)と同様に、第1ピリオド・第2ピリオドで目立っていた2番(CB)・7番(SMF)・6番(CMF)・9番(SMF)・10番(FW)を中心に、更なる攻勢を仕掛け主導権を握った。第3ピリオド5分、SSSは自陣右サイド4番(SDF)→10番(FW)へのくさびのパスがフィールズDFに当たりコースが変わる。このボールに反応したSSS・10番(FW)がスピードに乗ったドリブルでペナルティエリア内まで切れ込むと、最後はゴール左隅に冷静に決め、またもフィールズか

らリードを奪う。その後もSSSが主導権を握り、シュート数も徐々に増えていった。フィールズは追加点こそ許さなかったものの、同点ゴールは奪えず、そのまま2-1で試合終了。第13回JA全農杯チビリンピック8人制サッカー大会札幌地区予選・第2ブロック代表は、SSSに決まった。



第2ブロック決勝戦
(クラブフィールズ vs SSS)



第1ブロック優勝：コンサドーレA(左)
第2ブロック優勝：SSS(右)